

名勝 旧関山宝蔵院庭園

令和元年度の修復整備の概要



江戸時代の日記史料に基づき、
当時の庭園景観を再現しました。

2019.11.3 撮影

庭園の修復整備事業を開始して5年目となる令和元年度は、江戸時代に記された「ほうぞういんにつき宝蔵院日記」の植栽に関する記事を読み解き、失われた当時の植栽を復元的に再現しました。また、庭園の見どころとなる石灯籠いしとうろうや三尊石さんぞんせき等も、現地に残る石で忠実に再現しました。

新潟県 妙高市

江戸時代の景観が再現されるまでの動き



【樹木の伐採】

宝蔵院が存在した江戸時代の景観に復元するために、まず、明治時代に入ってから新たに植栽されたスギ等の樹木を伐採しました。

伐採の対象とした樹木は、庭園の正面にそびえる妙高山の眺めをさえぎるもの、斜面や水路の石組に根がらみしているもの、新たな植栽の支障となるもの、に限定しました。



【石灯籠と三尊石の修復】

斜面の3か所に残っていた石灯籠の石材をそのまま使用し、失われていた「火袋」や「笠」を新たに追加し、3基の石灯籠を復元しました。

また、同じく築山に残っていた3つの巨石を本来の位置に戻し、三尊石の形に復旧しました。この三尊石は、正面の滝とともに礼拝の対象であったと考えられます。



【植栽の整備】

江戸時代に書かれた「宝蔵院日記」に登場する樹木を中心に、周辺の低山地に一般的にみられる樹木等を加えて、当時の植栽を復元的に再現しました。

今回の植栽整備では、高木ではアカマツ、ヤマモミジ、ナナカマド、オオヤマザクラ、エドヒガンザクラ、コメツガ、ウメ、中低木ではユキツバキ、ヤブツバキ、果樹、ボタン、ヤマツツジ、レンゲツツジ、ヤマハギを植栽しました。



【石垣前面の整備】

江戸時代の石垣を覆い隠すコンクリートブロックを解体・撤去しました。

その結果、石垣の一段目が道路と同じ高さになく、道路に合わせて平らに整地すると石垣が浮いて根元から崩れてしまうため、庭園の石組と同じ安山岩（通称関山石）で新たな護岸石積を設置しました。この石積は、石垣と明確に区別するために、石の大きさ・形・積み方を変えて行いました。